

P3-232 リウマチクリニックにおける線維筋痛症患者の受診動向と追跡調査

○大浦 孝, 楠 憲夫, 上原 和範, 赤嶺 正樹

医療法人十全会 おおうらクリニック

【背景】線維筋痛症(FM)の診療は特定の診療科に属せず、多科に亘り重複したりする。

従ってその受診行動を調査し掌握する事は社会的にも医療上も意義ある事である。

そこで人口流入出の少ない地方都市(人口34万)のリウマチクリニックでの患者流入出を調査し、現状を分析した。

【目的】FMの受診行動を調査し、治療の現状を掌握する。

【対象・方法】

受診動向:この7年間でFM疑として当科受診した患者の診断を確定する。

追跡調査:その後、アンケートにより当該患者の受診行動を追跡する。現在の受診科及び症状と治療方法を分析する。

【結果】①この7年間でFM疑の総受診患者は156名であった。その中、確定診断患者は96名であった。

②当院通院中は16名で、転院通院中、通院中断、自宅療養、入院中、軽快と区分された。受診診療科も多科に亘って巡回していた。臨床症状、経過、治療方法も多種多様であったが、薬物療法としては、抗てんかん薬、抗うつ剤が主要薬であった。典型的な症例を呈示する。

【結論】①地域における診療体制の構築が必要である。

②治療方法の標準化が必要である。

利益相反：無